

1. 日時 令和元年 11 月 26 日(火)15:00-17:00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者(委員)

梅田和子委員長、福永光伸委員、篠崎静夫委員、仲村英理委員、大西啓嗣委員、山口照美委員(本日欠席)

4. 主な内容

- ・ 野球部出演のテレビ番組の視聴
- ・ 各課程による令和元年度学校経営計画進捗状況について
- ・ 令和2年度教科書選定について

5. 説明・協議

[定時制の課程 Ⅲ部]

**説明及び協議**

- 学校経営計画の進捗状況について

めざす学校像

- ①確かな学力の育成及び教員の授業力向上 ②キャリア教育及び進路指導の充実
- ③豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成 ④学校運営体制の確立及び人材の育成

○ 確かな学力の育成及び教員の授業力向上

- ・ 前期に行った授業アンケートの結果がすべてにおいて昨年度を上回った。当該授業の予習や復習を行なっている生徒の割合のみ数値が低い、教員はそれぞれの授業の冒頭部で、前時の復習を行うなど工夫をしている。また、ICTの活用も積極的に行なっている。

○ キャリア教育及び進路指導の充実

- ・ 令和元年度 10 月末段階で、スクールソーシャルワーカー(以下 SSW)が 18 回、スクールカウンセラー(以下 SC)が 6 回勤務し、生徒との面談やケース会議を実施してきた。SSW は役所の福祉部等外部機関との連携においても積極的に関わりを持っている。
- ・ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」として、NPO 法人 Fair Road の協力のもと校内にカフェを設置している。季節ごとにイベントを開催し、生活体験の乏しい生徒に新しい機会を提供している。
- ・ 令和元年度 10 月末の段階で、学校斡旋就職の希望者 9 名のうち 5 名が内定をもらい、残り 4 名及び新たな希望者については現在も指導を行なっている。

○ 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- ・ 特別活動や生徒会活動

「遠足」「体育祭」「文化祭」「修学旅行」「交通安全 HR」「人権 HR」を実施した。「遠足」については年次費として費用を徴収するものの運営はそれだけでは厳しく、生徒の自己負担が多い。来年度は年次費全体を増税分増額し、参加しやすい体制を整える。

○ 学校運営体制の確立及び人材の育成

- ・ 新任 3 年目までの教員を対象としたフレッシュマンセミナー、経験の少ない教員との将来構想会議、職員会議における研修報告により教員の質向上を図っている。

○ 協議

Q① SSW との連携について、外部との連携等を例に挙げて工夫している点を説明してほしい。また、委員会の構成メンバーはどのようになっているか。

A 生徒支援委員会全体は 6 名、その中の 3 名が SSW との連携を行なっている。事前に打ち合わせを行い、SSW 勤務の全体のスケジュールを決定している。

外部機関との連携の際は役所にも共に訪問し、ケースワーカーなどとも連携が取りやすくなる手立てを立ててもらっている。

Q② 修学旅行の費用や参加者数の確保等について伺いたい。

A 費用は積み立て方式のため、参加者数の確保が難しい。本校は単位制であるため対象となる三年次だけでなく、今年度卒業となる生徒へも参加を促している。

[定時制の課程 I・II 部]

- 学校経営計画の進捗状況について

**現状**

- ・ 今年度は I・II 部合計 561 名からスタートした。秋の卒業生及びそれまでの退学生、10 月に入学した生徒も入れると現在は 560 名となっている。次年度より、2023 年 9 月の閉課程へ向けて、編入・転入生(以下編転生とする)のみの入学となるため、来年度は 500 名程度でのスタートとなる。
- ・ 前期の単位修得率(単位修得できた延べ人数 / 登録している生徒の延べ人数)が 61.7%で昨年度と同程度であった。単位修得率の高さは II 部の科目の方が多いが、単位を修得した生徒の割合は I 部の方が高い。これは、I 部の生徒が何らかの事情で I 部の単位を修得できなかったとしても、II 部の授業を併修できる本校の特徴がもたらした結果であると推測される。
- ・ 昨年度の希望調査では、進路が決定しないまま卒業する生徒が約半数となっており、今年度は卒業が視野に入ってきた生徒への進路希望調査を例年よりも徹底して行なった。その結果、卒業予定生 92%から進路希望調査を回収でき、年度末へ向け担任と進路指導部が連携しながら指導に当たっている。後期 114 名の卒業予定生のうち 36 人が進路を決定している。

## 課題

1. 生徒が登校したくなる学校づくり
2. 進路指導
3. 不登校生徒の取り組み

### 課題 1.生徒が登校したくなる学校づくり

- 1-1. 生徒に最も近い保護者へのアプローチに力を入れている。前期と後期に一回ずつ保護者懇談を実施している。申し込み用紙から「参加しない」を削除し、電話でも相談を行うことをアピール。結果、4.3%参加率が増加した。また、学校情報を共有するべくメールマガジンも配信、本協議会までに通算 22 回のメールマガジンを配信した。さらに、ホームページも一新し、「見やすくなった」とのフィードバックも受けている。
- 1-2. 教員の授業力向上の視点から授業見学月間及び研究授業を実施している。両者ともに見学後は見学用紙を提出することになっており、今年度の回収率は 78%だった。目標は 85%であり、後期は回収率を上げる予定である。
- 1-3. 学校行事前には、教員向けの研修を行い、行事の質の向上につなげている。例えば、保護者懇談会前には新転任者を中心に保護者と教員に役割を分けたロールプレイング形式での研修を実施している。
- 1-4. 教員向けの研修としては、他にも支援を題材にしたものがある。スクリーニングシートの活用について学ぶことで、生徒の状況の把握及び対応策の考え方等を研修している。

### 課題 2.進路指導

- 2-1. 昨年度の進路指導の結果に鑑み、進路説明会を積極的に実施している。本協議会までに計 4 回の実施があり、参加者累計 855 名、肯定率 97.6%を記録している。
- 2-2. 保護者向けの進路説明会も別日で開催している。保護者からの意見を反映し、土日での開催を主に行うことで参加者の増加を図っている。

### 課題 3.不登校生徒の取り組み

- 3-1. 大阪府の不登校支援モデル事業を活用し、教育センターより教育相談室の指導主事、臨床心理士に来校してもらっている。不登校の生徒に関する様々な情報を共有し、見立てを行っている。
- 3-2. 中退防止への取り組みとして、出身校訪問を行なっている。今年度は高等学校4校、中学校 20校を訪問し、生徒の状況把握を行なっている。

これらの取り組みを行う中で、なるべく多くの生徒が学校に来られるよう寄り添いながら取り組みを進めていく。

● 協議

Q① 保護者との連携を密に行なっていく中で、すでに単位を修得できない生徒に対して対応をどのように行なっているか。

A 早い段階から連絡を入れてその事態になることを未然に防止する努力をしている。電話が繋がらない場合はFAXを使用し連絡を取ることもある。

Q②スクリーニングシートの活用法について具体的に教えてほしい。

A SSW や SC の来校日に各教員が持参できるように、日々使うように声かけを行なっているが強制はしていない。

[通信制の課程]

● 学校経営計画の進捗状況について

○ 近況報告

- ・ I・II部との合同チームであるサッカー部が全国大会に出場した。
- ・ 陸上部の部員が全国大会に出場し、3つの種目で入賞した。
- ・ 秋季発表大会において書道部が、最高の賞である知事賞を2年連続受賞した。
- ・ 文芸アニメ部が大阪日日新聞の取材を受け、記事になった。
- ・ ホームページの中身を一新した。本体そのものを変えるのではなく、更新しやすさを向上させ、更新頻度を上げることを狙っている。
- ・ メールマガジンは594名の登録者数で、登校している生徒の約3分の1となる。

○ 教員向けの取り組みについて

教育課程編成の方針を決め、生徒にどのような力をつけてほしいかを考えるためにワークショップ形式で研修を実施した。生徒につけてほしい力として「自己肯定感」「他者との関係を築く力」「未来を切り開く力」を挙げ、それらを支えるものが基礎学力であると結論づけた。

○ 次世代桃通検討会議

- 昨年度に引き続き実施している。
- 今年は、課題解決型の研修として経験年数の少ない教員を中心に検討を行っている。トップダウンではなくボトムアップの改革が狙い。頻度は10月から月に1回ペースで3回の全体会を行い、それまでに設定課題について班ごとに検討し、それを持ち寄って発表を行っている。

○ 研究スクーリングと研究協議について

- 昨年度までは教科ごとに実施していたが、ペースが異なったり、個々の負担が異なることから教科を外してチームを作った。チームは「ベテラン」「中堅」「3～5年目」「新着任者」で構成されている。

- 経験年数の少ない教員はベテランの授業を見るなかで自らの課題について考え、自らが実施する際にはベテランから指導を受ける。さらに、これまでなかなか実施できなかった研究協議の時間を確保した。
- 合わせて府立学校に対して、公開スクーリングも実施したところ、11名が参加。本校以外の教員に通信制とはどのようなものかを知ってもらう機会となった。

#### 協議

Q① 次世代桃通検討会議の中で、ICT やブログ、ホームページに関する話題は議論されることはあるか。

A ある。経験年数の少ない教員の中で取り組みは進んでいる。生徒の中には携帯電話やスマートフォンを所持していない生徒もあり、学習や情報発信については、紙ベースでの配付を徹底することが前提としてある。

Q② 教育課程編成の方針にある「自己肯定感」を高める取り組みについて具体的な話をしてもらいたい。

A まず「本校の入試で評価Aの生徒が3年間で卒業できる教育課程」をめざす。評価Aの生徒というのは、様々な事情を抱え、通信制しか進学先のなかった生徒である。次に「生徒のニーズに直結した新しい科目」や「教科横断的な学校設定教科」を策定したい。特に新しい科目については、現段階で行なっている商業・工業科目の廃止等困難な課題があるため、今後も教育庁と検討を重ねていきたい。

#### 令和2年度教科書採択

本校は、多部制単位制の学校で、学年制をとっていない。令和2年度の教科書採択に関しては、原則令和元年度の教科書を引き続き使用する。